

## (5) 東海



東海地域では、景気は緩やかな改善がみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

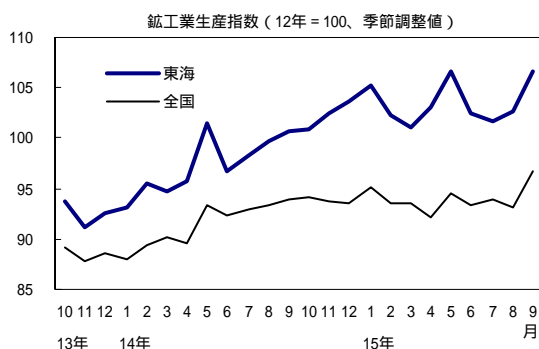
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年8月)	今回(平成15年11月)
景況判断	持ち直しの動きが続いている	緩やかな改善がみられる
個人消費	おおむね横ばい	緩やかな持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

輸送機械は、自動車全体としては引き続き底堅く推移しているものの、完成車の国内向けが小型車を中心に弱含んでおり、輸出向けが高水準ながらも横ばいとなっている。なお、自動車部品は完成車メーカー向け、輸出向けともに引き続き堅調に推移している。一般機械は、金属工作機械が輸出向け、国内向けともに自動車関連を中心に堅調に推移しており、繊維機械では織機に持ち直しの兆しがみられる。電気機械は、自動車向けの電動機や制御機器を中心に増加している。窯業・土石は、陶磁器がタイルや飲食器を中心に低調に推移しているものの、ファインセラミクスに持ち直しの兆しがみられる。化学は、自動車部品原料等が引き続き高水準を維持しており、全体でも底堅く推移している。



### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	33.9	0.2	5.4	3.6	8.2
一般機械	11.3	3.9	0.4	4.8	0.6
電気機械	7.3	4.9	1.8	1.2	5.0
窯業・土石	6.1	3.5	0.8	2.1	1.9
化学	5.4	0.4	2.0	0.6	0.2
鉱工業	100.0	1.2	0.3	0.5	2.3

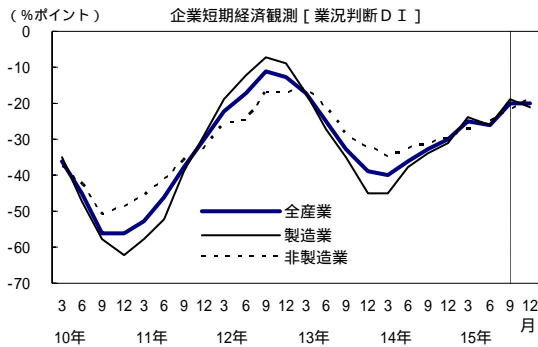
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期は速報値。

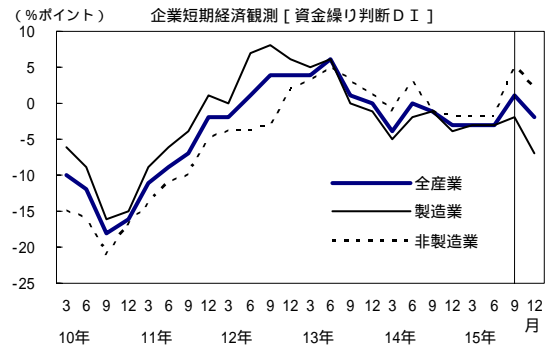
3. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(備考) 平成15年9月の東海は速報値。

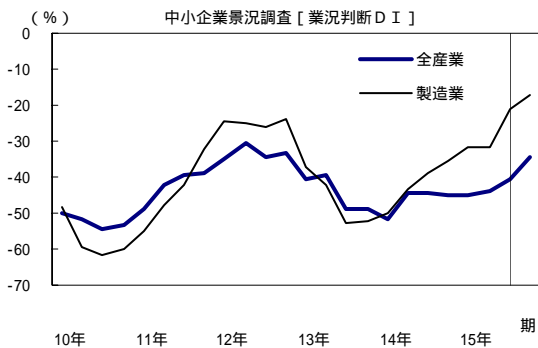
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。  
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。  
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「都銀など金融機関の状況が変わらないため中小企業では資金に対する不安や慎重な姿勢もみられるが、信用金庫などの貸出は多少増えているため順調な会社も出てきている (公認会計士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

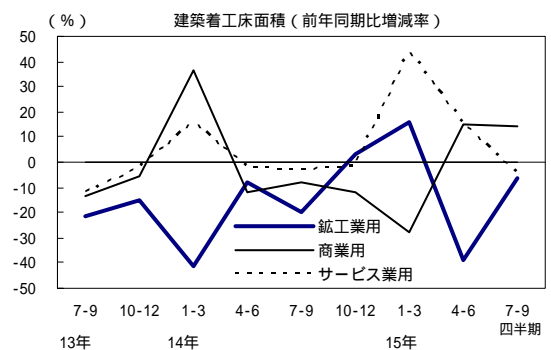
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	9.1	9.5 [ 9.2 ]
製造業	5.8	9.5 [ 8.0 ]
非製造業	12.0	9.5 [ 10.3 ]

(備考) [ ]は前回 (6月) 調査結果。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる。

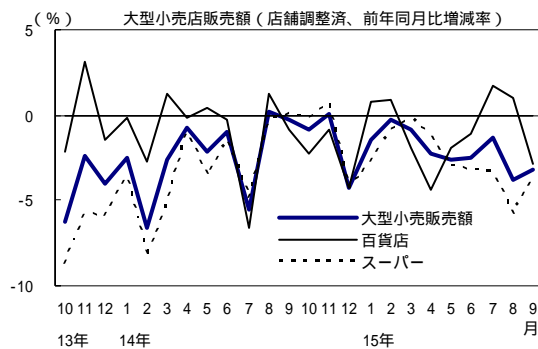
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7、8月は天候不順等から飲食料品が低調に推移したものの、一部の夏物セール等が好調で、主力の婦人服を中心に衣料品が前年を上回り、全体でも2か月連続して前年を上回った。9月は残暑の影響による秋物衣料の不振などから婦人服を中心に衣料品が低調で、好調が続いていた身の回り品も5か月ぶりに前年を下回るなど、全体でも3か月ぶりに前年を下回った。

スーパーは、期間を通じて飲食料品が比較的に底堅く推移したものの、婦人服を中心に衣料品が振るわず、全体でも10か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

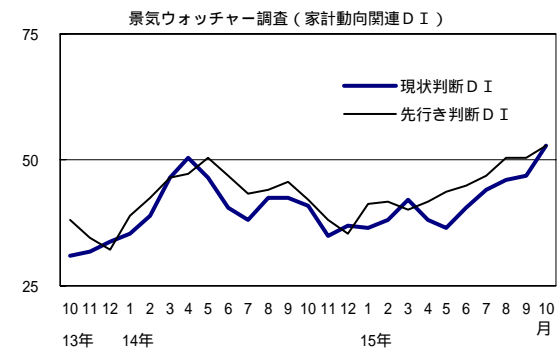
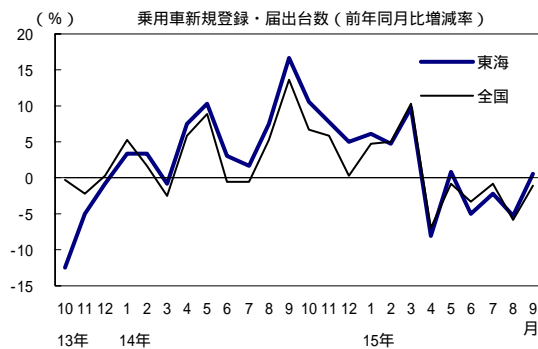
「イベントやフェアの開催時には来客数を確保できるが、それ以外の日の動きは鈍い。同業他社の店舗も催事やテレビ、雑誌で紹介された時には来客数が増えているようだ(高級レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.9	1.0	2.5	2.7
百貨店	2.7	0.2	2.5	0.2
スーパー	1.3	1.4	2.5	4.3
乗用車	7.7	7.3	4.1	1.8
景気ウォッチャー	37.6	39.0	38.3	45.7

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。中部地区の値。

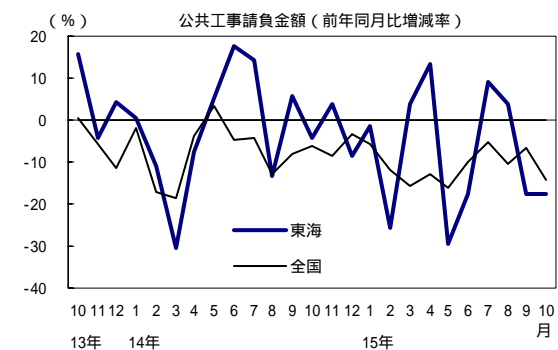
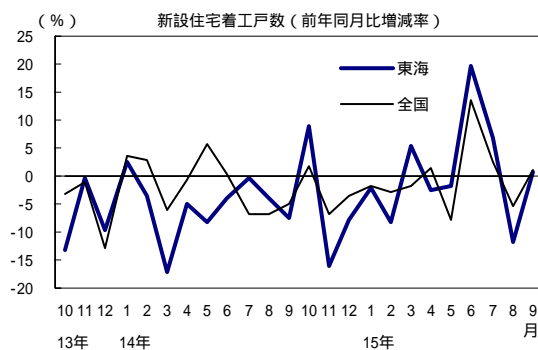
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲、貸家が前年を下回ったものの、持家を中心に前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

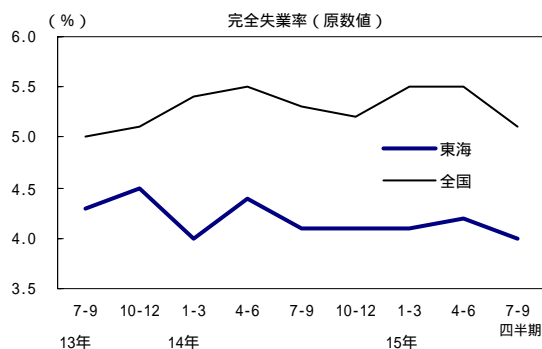
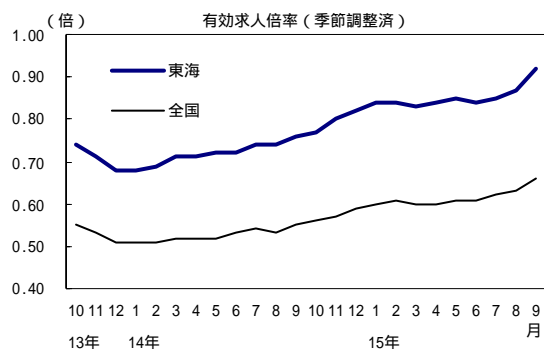


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準である。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

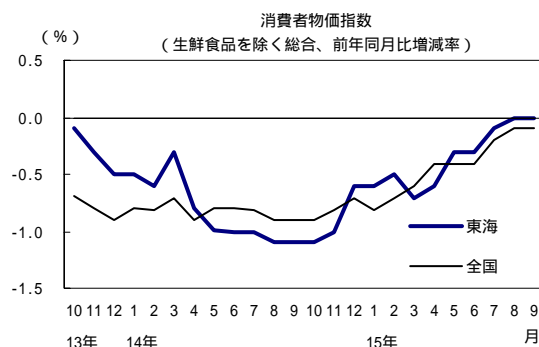
「自動車関連企業からの、電気、機械、材料等の技術者の求人は依然として多い。IT関連企業からの求人も増加しており、企業の求人意欲は全般的に増加傾向である(民間職業紹介機関)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	417	453	407	350	106
(前年比)	13.1	1.5	12.7	25.7	27.4
負債総額	1,267	1,605	1,105	1,605	184
(前年比)	46.7	54.0	57.3	65.7	42.7



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・特に10~20代の女性向けの洋品、貴金属の売上が伸びている。全体でも前年を大きく下回る売場はなく下げ止まっている(百貨店)

<先行き>

・地上デジタルのテレビが普及し、さらにプラズマテレビ、DVDプレーヤーやデジタルカメラの売上也これから伸びていく(家電量販店)

